

平成31年度 広報広聴特別委員会行政視察報告書

1 期 日 平成31年4月11日（木）～12日（金）

2 視 察 先

【株式会社カラフルカンパニー】

- ・誌面構成について
- ・編集作業について

【石 川 県 加 賀 市】

- ・議会改革について
- ・広報広聴部門について

3 参 加 者 （9名）

委 員 長 武藤 忠樹

委 員 森藤 文男、美谷添 生、尾村 忠雄、清水 正照、
森 喜人、田中 康久、野田 勝彦

事 務 局 議会総務課主任 岩田 亨一

4 研修結果 以下のとおりである。

株式会社カラフルカンパニー

4月11日（14:00～15:30）

【株式会社カラフルカンパニーの概要】

- 所 在 地 石川県金沢市玉鉾3-29
- 設 立 昭和58年4月22日
- 資 本 金 9,800万円
- 従業員数 174名

【視察項目】

- 誌面構成について
- 編集作業について

説明者：株式会社カラフルカンパニー 本社編集課 専任課長 山城 貴史
デザイン課 課 長 三浦 武

説 明 事 項

○編集作業について

媒体に共通して言えるこだわりは、「だれ」に「何を」が明確であることである。そして、読者とクライアント、自社にとって有益であること。コンプライアンス上問題がなく（子どもが見ても大丈夫であること）、関わる全ての人がハッピーになれることである。

○誌面レイアウトについて

第一に、企画の趣旨及び読者ターゲットに応じたデザインにする必要がある。性別や年齢といった情報からターゲットに向けた色や文字の大きさ等を決定する。次に、読者の目線がスムーズに流れるよう構成する。大きな写真や文字で目を引き、説明や詳細につなげていく。誌面全体でメリハリ（リズム感）が出るよう意識する。また、余白を活かし、圧迫感をなくすことを意識する。なお、色数や書体はそれぞれ最大でも 3 つまでとし、闇雲に増やさないようにする。これらを意識し、読者にストレスを与えないようにすることが大切である。

○見出しについて

見出しの役割は、①読者の興味関心を引くこと、②内容の主旨を伝えること、③視覚的なメリハリを生み出すこと、の 3 点である。誌面にメリハリをつける最も分かりやすい例は写真やイラストを用いることだが、文字もデザインのひとつと考え、見出しでメリハリを生み出していく。

興味を引く見出しの付け方のポイントは、①読者に呼びかけるもの、②読者に問いかけるもの、③具体的な数字を使ったもの、④ベネフィット（メリットや利益）をアピールするもの、⑤お得感がアピールされているもの、の 5 点である。特にベネフィット、つまり自身にとって関係あること、良いことがあるということを訴求することは、読者にとってより身近な問題として理解させやすくなる。ターゲットの設定によって、最適なベネフィットは変わる。

○文章構成について

読者に伝わる文章にするためには、1 文は短く、1 文の中には複数の内容を盛り込んではいけない。長くなると何を伝えたいのか分かりにくくなるからである。これは主語と述語の関係性をシンプルにすることにもつながる。また、不必要な接続詞は省き、改行を意識することで読み手のストレスを減らす。最低でも 5～6 行で改行する。また、難しい言葉（漢字）や一般的でない外来語は言い換える。

基本的には自分が書くことができない漢字や良く意味の分からない用語は使わないようにする。そして、読者を意識して、中学生でも分かるような内容にする。作成側が伝えたいことと読者が知りたいことが違うかもしれないということを念頭に置き作成する。

○校正について

文章は書き上げた後、声に出して読んでみるとミスなども分かり良い。また、書き上げてから時間をおいてから冷静に確認を行うことも大切である。また、第三者のチェックを受けることも重要である。

固有名詞、住所、電話番号は元原稿との突合せ、架電確認をしている。URL や QR コード等については必ずアクセス確認を行う。確認の際は、様々な媒体で利用できるかチェックを行う。

○写真について

ビジュアル重視の現代においては、写真は極めて重要な素材である。写真の選択については、企画の主旨を踏まえ、特徴や良さが表現できているかどうかを重視する。人であれば表情、料理であればシズル感（美味しそうかどうか）を重視する。

○郡上市議会だより 59 号について

まず、表紙についてだが、子どもや家族連れの写真が使用してあり、とても良いと感じた。ただ、デザインや配色、書体がスッキリしていないため、写真が映えないように感じた。全体的にもう少しデザインをスッキリさせると良い。

議会だより全体の印象として、「足し算」の理論で作られているのだと感じた。伝えたいことが沢山あるため、それらを足して構成されている。今はどう「引き算」していくのがトレンドである。

特集ページについては、市民からの声ということが分かりにくかったため、それらを見出して表現してはどうか。また、市民からの声を受けて、議員が感じたことを載せるとより良くなると感じた。

一般質問ページについては、全体的に文字が多くストレスを感じた。限られたスペースで多くのことを伝えたいという気持ちは分かるが、伝えたいことを伝えつつ、読んでもらえる誌面づくりが必要である。質問に「〇〇について」といった小見出しを付けたり、答弁と質問の間にスペースを入れると読みやすくなる。また、改行が少ないため、5～6行で改行することを意識すると読みやすくなる。

特別企画ページについては、議員の素顔が見える企画となっておりとても良かった。活動報告という側面が強いかもしれないが、市民と議会の距離を短くすることを意識し、親しみを感じてもらえるような誌面づくりが必要である。

最後に、裏表紙についてだが、現在の内容ではカラーページである必要性が感じられない。折角のカラーページなので写真で見せる内容が増えると良いと感じた。商品券のプレゼントについては、良い企画だと感じた。

●主な質疑応答

Q 議会だよりは二色刷りだが、二色刷りの際に気を付けることや色使いのポイント等はあるか。

A 二色刷りの場合、グレーを多用するとメリハリが弱くなる。例えば、写真が背景に掲載されているページがあるが、写真が背景にあることで、全体的にグレーになっているため、肝心の読んでほしい文字が見づらくなっている。そういった配慮は必要であると思われる。



質疑応答の様子

Q 黒と水色の二色刷りだが、水色の使い方についてはどうか。

A 本当に伝えたい内容は黒の方が良い。一番が黒、二番が青。ただし、全体的に暗くなるということであれば、色の優先順位を逆転させて一番を青、二番を黒としても良い。

Q 専門のソフトは何を使用しているか。

A 制作部門においては Mac を使用している。アプリケーションはアドビを使用している。編集ツールはインデザインを使用している。写真自体は、アドビのフォトショップやイラストレーターで加工し、それを統合するような形でインデザインを使用し実際の誌面を作成している。そのため、パソコン上でほぼ誌面そのままの状態を作ることができ、それが一番のメリットであると考えている。印刷する前のデータの段階で確認ができ、修正が容易となる。ただ、デメリットとしてあるのが、元のデータが間違っていた場合、誌面もそのまま間違ってしまうということ。

Q 目線の流れについて、通常、新聞等であれば右上が一番目を引くところであるが、位置的な配置はどのように考えているか。

A 基本的には、新聞と同じ右開きであれば、目線がくるのは右上となる。そのため、金沢情報についても右から左、斜めに右下へ行き、左下と目線が流れるように作っている。

Q 色は三色までという話があったが、こういった範囲の三色となるか。

A 背景も含めた範囲での三色となる。

Q 最近では売り手、買い手、世間、そして未来を含めた「四方良し」という言葉があるが、未来に対して意識していることはあるか。

A 紙メディアの需要は 20 年前と比べ減っている。あくまでも紙メディアのおまけになってしまうが、インターネットメディアを利用してどう利益を上げていくかを考えている。また今後は人口や世帯の減少や高齢者の増加についても考えていく必要がある。

Q 書体についても三種類までということだったが、議会だよりは限られた範囲の書体で作成している。その中で、どのように書体を増やし表現すると良いか。

A 数を増やした場合、優先順位をしっかりとつけていけば見やすく作ることできると思われる。各コーナーの雰囲気を意識し、雰囲気に合わせて、隷書体、ゴシック体、明朝体を使い分け、優先順位を付けることで、見る人が迷わないような作りにすることが大切である。

Q 縦書きと横書きの使い分けについて。

A 縦書きを使う場合は、長い文章をしっかりと読ませたい場合に使用している。ただし、長い文書では読んでもらうことは難しいため、短い文章で読んでもらえるように、横書きを使用する。

Q 「だれ」に「何を」を明確にすることが重要であると説明があったが、議会だよりのように特定のターゲットではなく全ての市民を対象にしたような媒体の場合に気を付けることは。

A まずは高齢者のような一番の弱者がストレスなく読めることを意識している。郡上市の議会だよりは文字が大きく読みやすいと感じた。当社の金沢情報は文字が小さいため。やはり、全ての市民と言っても子どもが読む訳ではないため、有権者として考えれば、ある程度お年を召した方でもストレスなく読めるということは非常に重要であると言える。そういった視認性を意識すると良い。

Q 背景に写真を使用したページがある。中には邪魔だという意見もあったが、背景が真っ白である場合、べたっとした印象があったことと、このページは写真が全くなかったこともあり、背景に写真を掲載したが、こういった写真の載せ方についてはどうか。

A 全体の会議している様子を伝えたいのであれば、左上に写真を掲載し、右上に主題を配置、文字は下段にまとめて右から左へ掲載すると読みやすくなるのではと感じた。写真が背景になっていることで、全体的にのっぺりした印象になってしまっている。背景に何も無い状態だったため写真を掲載したということだが、逆に何も無い余白が読みやすさを生む。やはり、伝えたいことが沢山あるため、あれもこれもと見せたいという気持ちは分かるが、それでは結果としてどれも伝わらない。「引き算」をすることはとても難しい。余白もつい埋めてしまいがちだが、勇気を持った「引き算」がとても重要になる。



編集作業の説明を受ける様子



事業内容の説明を受ける様子

石川県加賀市

4月12日（10：00～11：30）

【加賀市の概要】

○人 口 66,869人（平成31年4月1日時点）

○面 積 305.87km²

○議員数 17人（定数18人）

【視察項目】

○議会改革について

○広報広聴部門について

説明者：加賀市議会事務局	次長	奥村 外与彦
	係長	高橋 秀樹
回答者：加賀市議会	議長	田中 金利
	議員	東野 真樹

説 明 事 項

○議会報告会について

加賀市は平成 23 年 4 月から議会基本条例を制定し、様々な取り組みを実施してきた。議会報告会については第 18 条に規定されており、それに基づいて条例が制定された平成 23 年度から本格的に議会報告会を実施している。これまでの経過を説明すると、開始した当初は主要 3 地区で開始したが、平成 24 年度はまちづくり単位（小学校区単位）の 20 地区、平成 25 年度は中学校区単位の 6 地区で実施している。平成 26 年度はまちづくり単位の地区が 1 地区増え、21 地区で実施した。平成 27 年度は金沢大学准教授の講義を併せ市内文化会館で実施した。平成 28 年度からは議会報告会実施要綱を適用し、まちづくり単位 21 地区を 11 地区と 10 地区に分けて 2 年間かけて開催することとした。常任委員会の構成を考慮し 3 班に議員を班分け、また原則 2 年間はメンバーを変えないこととした。開催時期や方針は、議会活性化特別委員会で協議、企画している。意見交換のテーマは、3 つの常任委員会が 1 つずつ提示し設定している。具体的には、実施日時や会場は各班で協議し決定し、地域への声掛けは議員が自ら行うこととしている。ただし、ホームページや議会だより、広報誌などでの呼びかけといった事務的なことは事務局が行っている。

報告会当日については、事前に各班で議員の役割分担を決めている（受付、司会など）。当日の時間は全体で 1 時間半程度。会場の設営や片付けは議員が自ら行っている。報告会については、意見交換の場であり、陳情や要望の場ではないことを最初に説明している。また、市民の質問については、議会としての見解の他、前置きをした上で議員個人としての意見を述べることもある。平成 30 年度については、当初予算の主要事業と 3 つの常任委員会が設定したテーマについて報告している。

報告会実施後については、意見や提案を所管の委員会へ振り分け、調査・検討を行う。概ね 3 か月程度で回答を集約し、ホームページや各会場に回答を掲載し公開している。

加賀市では施策の進捗管理で PDCA サイクルを平成 27 年度から使用している。議会報告会についても記載し、全議員で内容を共有している。

○女性議会について

過去に 3 回実施している。女性連絡協議会と連携して女性議会を開催している。会場は内容によって議場を使用したり会議室を使用したりしている。議会に対して質問するという形で実施してきた。

○子ども議会等について

過去 3 回、小中高と実施している。子どもが議員となり議員は隣で補佐する。執行部に対して意見の提案を行い、答弁を得るという形で実施している。

また、高校生との意見交換会を平成 29 年度から実施している。2 限分の時間を使い、市の活性化・福祉政策について生徒と議員がグループに分かれ、話し合い・発表を行っている。

さらに、平成 30 年度からは、議会おでかけ教室として、市内小中学校で議会活性化特別委員会の議員が出前講座のような形で議会の概要を説明している。

○議会だよりの編集について

「議会の一歩の情報源は何か」という市民アンケートでは、60%弱が議会だよりと回答している。議会だよりの所管は、議会活性化特別委員会であり、中でも広報部会を設けており、編集にあたっている。この部会は1期・2期議員、いわゆる若手の議員がメンバーとなっており、現在は委員5人で編集を行っている。

○議会だよりのモニターについて

平成27年度に導入した。広報広聴の充実強化のため、議会だよりの強化を目指し進めている。モニター員は一般公募及び地区や団体からの推薦をお願いしている。毎年、概ね10人に1年交代をお願いしている。依頼している内容は、年4回発行している議会だよりを読んでいただき、意見・提案をもらっている。また、年末には正副議長及び広報部会メンバーと意見交換会を行っている。謝礼としては、アンケートの回答ごとに500円分の図書カードを渡している。これまでに様々な意見をいただき、平成27年度までは8ページであったページ数が、平成28年度には12ページ、平成29年度以降は16ページと2倍となっている。それにより、議員の質問のページ数も増やしている。さらに、議案や特集記事の掲載など、改善を図ってきている。その他の工夫としては、以前は2色刷りだったが、現在は全ページカラー刷りとなっていることや、文字を大きく文字間を広げている。写真やイラストを多く使用し、フェイスブックのQRコードの掲載もしている。

○議会ホームページ、フェイスブック、アンケートについて

ホームページは現在も更新作業中なため、まだ見にくい箇所もあるが、レイアウトも含めて改善を進めている。

フェイスブックについては、平成28年度に導入しており、1,000人に「いいね」をしてもらえることを目標とし、様々な情報を発信している。

アンケートについては、過去に平成25年度と28年度の2回実施している。結果を見てみると、少しずつではあるが、議会に対する関心・評価が高まってきていると思っている。2017年に行われた議会改革度調査では全国4位（一般誌では1位）という結果をもらっている。こういった評価に甘んじることなく、市民に信頼される議会運営を着実にしていきたいと考えている。

●主な質疑応答

Q モニターの応募はどの程度あるか。

A 21地区を3年間で分けて1年任期となるため、7地区から推薦してもらっている。また、それとは別に女性団体から2名。一般公募も行っているが、大体1名程度であるため、概ね10名程度となる。

Q 回答しやすいアンケートの内容や回収率向上のための工夫について。

A 年の当初にモニター員に説明会を行っている。



質疑応答の様子

議員、事務局、モニター員が参加する説明会となっており、議会だよりに対する質問についてアンケートを行っている。必ず毎回出してもらっている。4 回の議会だよりの発行後に広報部会を行い、アンケート結果について送付している。

Q モニター員との顔合わせはあるか。

A 当初の説明会と年度末の意見交換会の 2 回。

Q モニターの委嘱はあるか。

A 委嘱はない。

Q 議会だより以外にモニター制度を設ける予定はあるか。

A 昨年度で 3 年間で終了したため、今年度からは議会モニターとして全体的に評価してもらう制度で新しく進めていく予定。

Q モニターの謝礼は 500 円の図書券という話だったが、交通費等の支給はあるのか。

A アンケートは郵送対応のため、交通費の発生はない。また、説明会と意見交換会についても、交通費の支給はない。

Q 議会報告会は決まった人が来ることが多いと思うが、そういった悩みやそれに対する工夫はあるか。

A やはり大体決まったメンバーになる。区長や自治会長の協力体制によって 10 人～100 人と集まる人数にも差がある。ただ、100 人集まる場合であれば、新しいメンバーも見られる。今後、「お出かけ議会」のような、何かの会の際に時間を取っていただき、報告会を行う工夫もあっても良いのではないかと考えている。

21 地区で分けて行っているが、全部やるのは議員も大変である。なるべく中学校単位で他校区の人とも来てもらえるような体制で行っている。地元の議員は当然行くが、その他の議員も 3 班に分けていくようにしているため、現状、人が集まらないということはない。

Q 議員報告会で陳情や要望が出た際はどうか対応しているか。

A その場で答えることのできる部分は回答しているが、検討が必要な部分については一度持ち帰り、各委員会等で検討してから自治会長や地区長などに回答を渡している。個人的な議員の思いは伝えているが、基本的には各委員会等で検討して伝えている。

加賀市は自治会長や区長は年に 1 回まとめて、報告会とは別枠で陳情や要望を持ってこられる。それで回答しているため、報告会で悩むような陳情や要望が出ることはまずないのが現状である。

Q 一般の人が質問するのはなかなか難しいのではないか。

A まず 3 つのテーマについて詳しく説明し、その 3 つのテーマについての質問をしてもらうようにしている。そのあと市政一般の質問をもらう。ただ、どうしても常任委員会のテーマだと毎年同じような内容になるので、今年度は、特別委員会をテーマに報告会をやっていこうと考えている。

分かりやすく意見を出してもらえるように、いくつかのキーワードを最初に投げかけ、それに対しての質問をもらうようにしようと考えている。どうしても市長の報告会と同じような内容になってしまうところがあるので、なるべく独自性をもったやり方で取り組んでいこうと考えており、将来的には、グループトーク的な形式でやっていきたいと考えている。

Q 報告の時間はどのくらいか。

A 報告自体は 30 分。

Q 女性議会を行う中で、自ら議員に立候補しようという人はいるか。

A 前回の選挙で女性議員が 2 名となった。1 名は以前より居た議員となるが、女性連絡協議会の会長をしていた人が新たに議員となった。ただ、なかなか女性の中で一般から立候補というのは難しい。

Q おでかけ教室にはどの程度の時間でどのような説明をしているのか。

A 道徳の授業の時間をもらっているため、大体 1 限分の時間となる。昨年度の秋から始めたが、小学校のプランが決定するのが 4 月であるため、2 月に 1 校しか実施することが出来なかった。その際は、議員がどんな仕事をしているか、学校側からの質問について説明した。ただし、説明が分かりにくく難しかったという声があった。

Q 昨年のおでかけ教室は何年生に行ったのか。

A 6 年生。5、6 年生から中学生を対象にしている。現在、クイズ形式や内容を柔らかくするよう検討している。どの議員が行っても、ある程度雰囲気づくりができるような体制をとるために準備している最中である。

Q おでかけ教室に派遣する 2 名の議員はどのように決めているのか。

A 1 期、2 期の議員で構成されており、1 期と 2 期の議員のペアで派遣する。

Q PDCA サイクルは良く聞くが、PPDCA サイクルは聞きなれない。あえて PPCDA サイクルを利用しているのはなぜか。

A 平成 27 年度の議長と事務局長のアイデアで開始した。よりわかりやすくするために手順を入れた方が良いと判断したのだと考えられる。

Q 議会だよりモニターから議会モニターへバージョンアップされたいという話であったが、議会モニターに期待することは。

A 議会だよりモニターにより、昨年 1 年間で議会だよりの内容はかなり良くなっている。議会活性化として一番力を入れてきた。この 3 年間で議会だよりについてはかなり読みやすくなったという声をいただいているため、今後は議会を見てもらうということで議会モニターとして進めていきたいと考えている。議会だよりだけでなく、議会全体に対しての意見をいただきたい。19 名の方に依頼している。

Q 議会活性化特別委員会を1期と2期の議員としている理由は。また広報部会は5名ということだが、その人数では事務局にかなり手伝ってもらわなければならないのではないか。

A 確かに事務局にはかなりの手伝いをしてもらっている。以前はベテランの議員が入っていたが、どうしても期数の多い議員は既成概念が強いため、やはり期数の若い議員の方が、従来の形を変えるという意味では良いと考えている。ただし、委員長は副議長が務めることになっているため、運営はしっかりできていると判断している。

事務局と正副広報部長でレイアウトや特集記事、ピックアップ記事を決定する。議会だよりで取り上げられなかった内容についてはホームページで見ってもらうように案内している。加賀市議会では、ある程度事務局がまとめ上げて、事務局と議員の意向を印刷会社が組んで作成するという流れとなっている。

Q 議会ではなく執行部への質問には答えられないため、執行部に確認し後日回答するということが、その回答は、質問された人へ直接伝えるのか。それとも議会だより等を通じて伝えるのか。

A 報告は区長に伝えて本人へ伝えてもらうようにしてある。当日も、後日、区長から聞いてもらうように伝えており、直接個人に伝えるということはない。

Q 議会報告会を5月に行っている理由は。

A 決算ではなく当初予算でやりたいという声があったため。

Q インターネット配信は何を配信しているのか。

A 本会議と委員会を配信している。

Q フェイスブックの管理と画像の撮影、インターネット配信の動画撮影はどこが行っているのか。

A フェイスブック管理は事務局がすべて行っている。

同様にアップする画像の撮影も事務局が行っている。インターネット配信用の動画撮影は地元のCATVが行っている。



議場視察の様子

5 所感

○株式会社カラフルカンパニー

誌面レイアウトについて、まず、誌面全体のメリハリ、リズム感をどう出していくかが重要であると伺った。誌面にメリハリをつける最も簡単な方法は、写真やイラストを用いることであり、文字だけしか使えない場合でも、文字もデザインのひとつと考え、見出しでメリハリを生み出すことが出来るということであった。文字や写真は、大、中、小の順番で目線の流れを考え配置すると良く、また、色や書体の数を闇雲に増やすのは避け、3種類までに抑えることがコツであると学んだ。特に、色については、グレーを多用するとメリハリが弱くなるため注意が必要である。

議会だより第59号について意見をいただいたが、表紙の写真については、大きく、また市民が沢山写

っており素晴らしいが、全体的なデザインや配色、書体の使い方がスッキリしていないとのことであった。議会だよりの印象として、伝えたいことが多く「足し算」の理論で作られているため、いかに「引き算」の理論でストレスを感じず読んでもらえる誌面にしていくかがポイントになる。クイズコーナーは市民も喜ぶ企画であるということで毎号実施すると良いという意見をいただいた。雑誌の作成を専門としている企業に話を聞くことが出来たのは、議会だよりを作成していく上で大変参考になった。

○加賀市

女性議会は過去に3回も実施されており、平成28年に実施した際は、9名の女性が参加された。普段なかなか聞くことのできない声を伺うことが出来たのではないかと感じた。加賀市には議会活性化特別委員会が設置されており、その中の広報部会は、委員が5名おり、1期2期議員で構成されている。期の若い議員で構成することで、新しい考え方を取り入れることが出来るとのことであった。平成27年度からは、議会だよりモニターを設置しており、このことから、議会だよりをより良くし、市民へ議会をより知ってもらおうという加賀市の熱意が伝わってきた。また、議会フェイスブックによる情報発信もしており、「イイネ!」1,000人を目標に更新を続けているとのことだった。更新や運営は全て事務局が行っていると聞き、事務局の人数を聞いたところ、議員18名に対して、9名もの職員が配属されており驚くと同時に、やはり、事務局のサポートがあることで、やれることの幅が広がるということを実感した。

6 視察経費

視 察 費	2 6 3, 3 6 0 円
一人平均	3 2, 9 2 0 円（委員8名）

以上、視察研修の主な結果について報告します。

令和元年6月28日

郡上市議会議長 兼 山 悌 孝 様

郡上市議会広報広聴特別委員会
委員長 武 藤 忠 樹